

I. 学校研究全体計画

研究主題

主体的に学び続ける子の育成
～つないで、表現し、深まる算数科の授業を目指して～

I. 主題設定の理由

本校は、昨年度「主体的に学び続ける児童」を目指す児童像とし、「主体的に学び続ける子の育成 ～子どもに委ねる算数の授業づくりを通して～」を研究主題として、子どもに委ねる授業に向けた授業改善に重点をおき、研究を進めてきた。昨年度までの成果と課題は以下の通りである。

○成果

- ①教材研究ノートを使って、学年間のつながりや系統性を意識して教材研究を行うことができた。授業での児童の発言に数学的な見方・考え方や概念が入るように意識することができた。
- ②中海小学校の委ねるとは何かを共通理解できた。（低学年は一斉授業メインで、見方・考え方を育てるベースを作る。高学年は単元を見極め、学習形態を工夫するなど環境を整えて委ねる。）
- ③授業の初めに1時間の流れとゴールの姿を確認することで、見通しをもって授業に向かう姿や個人思考の際に、教室掲示やデジタル学習基盤なども使って、既習を活用して課題解決に向かおうとする姿が見られるようになった。
- ④振り返りの観点を焦点化し、大事な考え方は何かを押さえることができた。高学年はデジタル学習基盤に単元の学習計画表と振り返りを一本化したものを用意し、思考の蓄積・共有をできるようにした。類似単元で振り返りに戻り、既習として活用することもできた。

●課題

数学的な見方・考え方や概念が、児童の発言として表れるためには、教師の発問の工夫をしていかなければならない。個別最適な学びと協働的な学びの具体的な姿があいまいで、個々の児童が本当に学びを最適化できているのか、見取りが難しかった。児童アンケートの「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の項目が他項目に比べて低く、まだまだ主体的に学んでいるとは言えない。

そこで、今年度は、研究主題を「主体的に学び続ける子の育成 ～つないで、表現し、深まる算数科の授業を目指して～」とし、引き続き主体的に学び続ける児童を目指す児童像に掲げる。

これまで5年間行ってきた算数科の研究をもとに、教科の本質を吟味し、既習と新しい学びとを結びつけながら概念を獲得し、深い学びの実現を目指していく。そして、児童が自己調整力を働かせながら学んだり、デジタル学習基盤の効果的な活用を行ったりしていく。また、引き続き、全教員で研究授業に取り組んだり、研修会に参加したりして、めざす姿を明確にし、共通理解し、共通実践していきたい。

2. 研究内容

(1) 既習と生活と「つないで」考える

①児童が自ら考えたい導入の工夫

- ・単元構想をもとに、1時間ごとの学習課題を焦点化し、解決する課題を明確にする。
- ・児童のおもしろそう!やってみたい!を引き出す導入を意識する。

②教師が既習を把握し、児童の思考の流れを予測する。

- ・教師が既習を把握し、児童の思考の流れ、つまづきそうなところを予測する。
- ・前の学習と何が違うのか、どのような結果になるかを予想させ、現在の理解状況を確認する。
- ・既習の知識を活用し、一人でじっくりと試行錯誤する時間を確保する。

(3) 様々な考えと「つながり」、再考を促す発問の吟味

今年度の重点

- ・子どもたちが自分から周りに聞いて情報を集められるような、適切な学習環境や学習する場の設定を吟味する。
- ・意図的なペアリングやグルーピングをして、安心して考えを共有できるようにする。
- ・適切な見取り自分とは異なる視点や解釈に触れ、自分の言葉で表現することを意図的に促す。
- ・考えを交流するときのポイント：自分の考えと比べて聞く、反応を返す、質問をすることを意識させる。
- ・交流のあと、再考する時間を確保し、自分なりの表現ができるようにする。

(4) 新たに習得した概念を言語化する手立て

- ・対話や活動を通して得た気づきを、確かな概念へと高められるよう板書にキーワード(大事ポイント)を残す。
- ・振り返りの視点：これまでとの違い、これからできそうなこと、単元を通じて学んだことなどを自分の言葉でかけるように、ポイントの提示と時間の確保を意識する。

(5) 授業を支える学習基盤づくり

- ・深い学びを引き出すための単元構想を活用した教材分析をする。
- ・失敗を恐れずに自分の考えを言える学級の雰囲気づくりをする。
- ・子ども自身が「何ができるようになるのか」見通しを持って取り組めるよう、ゴールの姿を児童の具体的な姿でイメージする。

3. 研究組織

研究推進委員会が中心となり研究の方向や進め方を提案し、各部との連携を図りながら実践を進める。

全体会 全体協議を通し、研究の進め方について共通理解を図り、研究の方向・方法を決定する。

授業研究の事前研や授業整理会をしたり、講師を招いたりして研究を深める。

部会 授業研究のための教材研究、指導案の検討、共通実践のフィードバックを行う。

研究推進委員会

校長・教頭

教務・研究

土田(中)・小林(低)

研究
全体
会

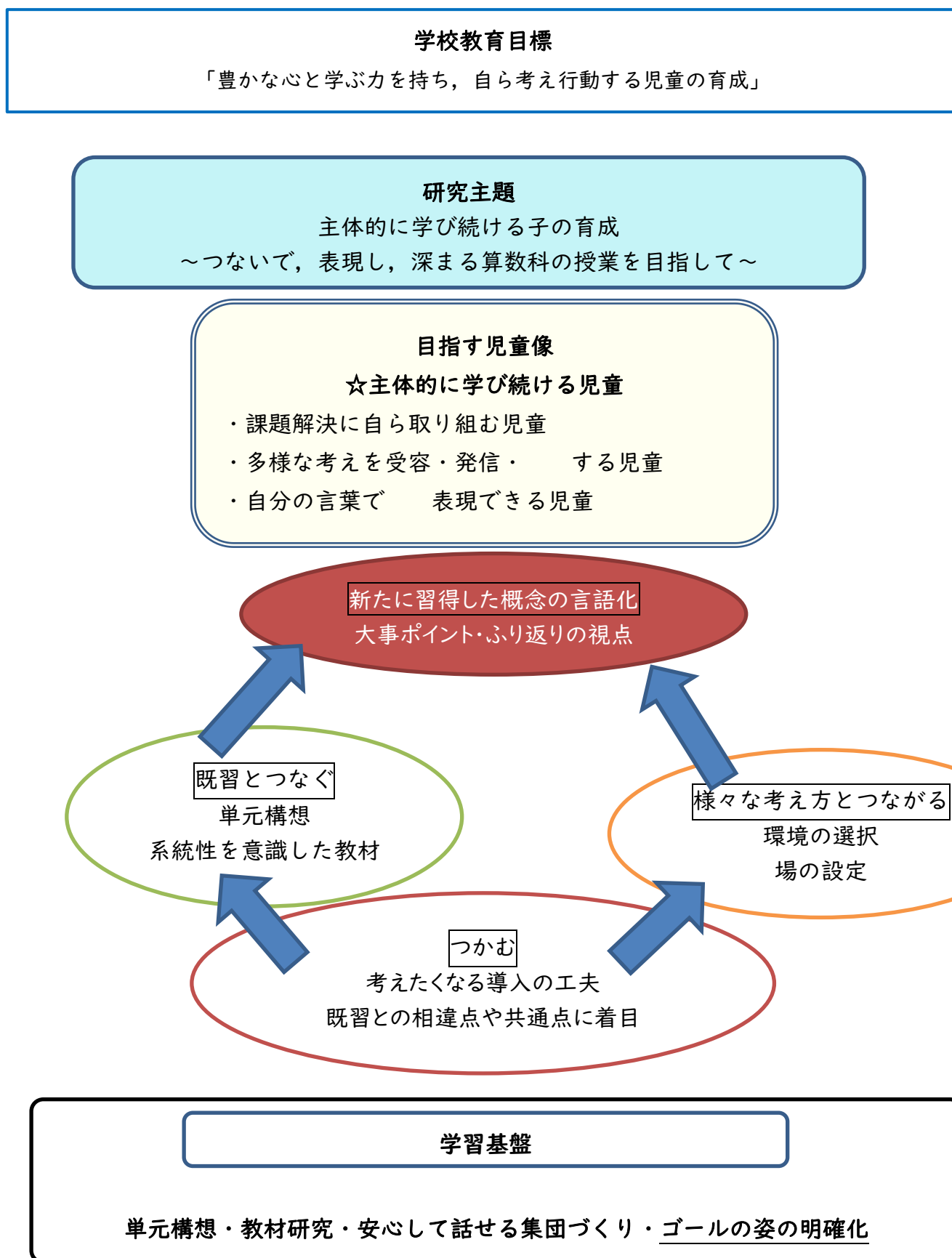
低学年部会

小林・清水・土田・関戸・西田・森澤

高学年部会

霜・坂口・谷鋪・池田・教頭

4. 研究の全体構想図



Ⅱ. 研修計画

時期		内容
4月	3日	第1回研究全体会
	下旬	共通実践のフィードバック
5月	14日	第2回研究全体会 指導案検討・模擬授業（5年）
	28日	研究授業 5年 第3回研究全体会 授業整理
	下旬	共通実践のフィードバック
6月	中旬	第4回研究全体会 指導案検討・模擬授業（3年）
	下旬	研究授業（3年）第5回研究全体会 授業整理 共通実践のフィードバック
7月	下旬	共通実践のフィードバック 第6回研究全体会「1学期の成果と課題について」
8月	下旬	第7回研究全体会 指導案検討・模擬授業（4年） 第8回研究全体会「1学期の振り返りと2学期の共通実践について」
9月	中旬	研究授業（4年）第9回研究全体会 授業整理
	下旬	共通実践のフィードバック
10月	上旬	第10回研究全体会 指導案検討・模擬授業（1年）
	中旬	研究授業（1年）第11回研究全体会 授業整理
	下旬	第12回研究全体会 指導案検討・模擬授業（5年）
		共通実践のフィードバック
11月	中旬	計画訪問 研究授業（5年）第13回研究全体会 授業整理
	下旬	第14回研究全体会 指導案検討・模擬授業（6年） 共通実践のフィードバック
12月	上旬	研究授業（6年）第15回研究全体会 授業整理 第16回研究全体会 「小松市学校研究物について」
	下旬	第17回研究全体会 「2学期の成果と課題について・3学期の共通実践について」 共通実践のフィードバック
1月	下旬	共通実践のフィードバック
2月	中旬	第18回研究全体会「今年度の研究の振り返り・来年度へ向けて」
	下旬	共通実践のフィードバック
3月	上旬	第19回研究全体会「次年度に向けて」
	下旬	共通実践のフィードバック